

ANNUAL REPORT 2017



石巻市子どもセンターが出来た経緯



震災直後2011年5月から6月にかけて、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(以下「SCJ」という)は、宮城県、岩手県の子どもたち約1万人にアンケートを実施し、90%近い子どもたちが「まちのために何かしたい」と思っていることを明らかにしました。その声を受けてSCJが子どもたちに呼びかけ、岩手県山田町・陸前高田市・宮城県石巻市3つの地域で子どもまちづくりクラブが発足しました。石巻市では、2011年7月に石巻市子どもまちづくりクラブが発足。同年夏には、復興に向けたまちづくりをめざし、“夢のまちプラン”を作成し、そのプランを市に提案しました。“夢のまちプラン”の中の色々な想いを1つにし、実現化したのが「石巻市子どもセンター」(以下、子どもセンター)です。地域と連携しながら子どもたちが企画・デザインを行い、2013年12月に完成し、SCJから石巻市に寄贈されました。寄贈後は、石巻市の児童館として運営されています。

子どもまちづくりクラブが考えた子どもセンターのコンセプト

石巻の活性化のために中高生が中心となってつくり、運営していく施設
みんなが過ごしやすい、子どもの想いを世間の人たちに伝えられる場所



子どもセンターグランドオープン

2014年1月19日

子どもセンターの企画・デザインを行った子どもまちづくりクラブと子どもセンターの利用者の代表として運営や利用方法を考える子ども会議メンバーが中心となり、オープンをお祝いしました。オープニングセレモニーでは、石巻市長をはじめ、SCJや建設にご協力いただいたサントリーホールディングス(株)、建築アドバイザーや施工業者、地域の方が出席され、みなさんから子どもセンターに期待する熱いお祝いの言葉をいただきました。午後には楽しいオープニングイベントが実施され、650名もの参加がありました。

子どもセンター1周年記念事業

2015年1月18日

らいつの日 ^{ゼロワン} 001

子どもまちづくりクラブの取り組みや子ども会議の活動を映像で振り返り、1年間のメンバーの思いを漢字一文字で表現しました。来賓の教育長や子どもセンター運営委員、保護者の方を前に、日頃思っていることを叫ぶ「未成年の主張」も行われました。「もっと公園が欲しい!」「石巻を元気にするアイドルになりたい!」などの子どもたちからの声に対して、真摯に答えるおとな。こんなやり取りが石巻を素敵なまちにしていけるのだと思いました。



子どもセンター2周年記念事業

2016年1月17日

らいつの日 ^{ゼロツー} 002

オープニングは、らいつのアイドルMilky Girlによるライブでスタート! Milky Girlは、「らいつの日001」で行われた未成年の主張で「石巻を元気にするアイドルになりたい!」と叫んだことから生まれたアイドルグループです。午前には商店街のお店の商品（お惣菜）でらいつの形を作り、参加者におもてなしをしたり、フリースロー大会で身体を動かしたりと様々なイベントが行われました。午後には「らいつをより良くするためにはどうしたらいいか」というテーマでワールドカフェが開催され、子どもからおとなまで約40名が参加し、らいつの好きなところやもっとこうしてほしいところを話し合いました。クロージングセレモニーでは、参加したみんなの手形でつくったバナーがお披露目されました。



子どもセンター2周年記念事業

2017年1月22日

らいつの日 ^{ゼロスリー} 003

らいつの日003を開催するにあたって、子どもまちづくりクラブと子ども会議のメンバーが考えたことは、

- (1) いままでお世話になった方々に感謝の気持ちを伝え、自分たちの成長を伝える。
- (2) 子どもセンターに来たことのない人にも足を運んでもらい、楽しかった、また来たいと思ってもらう。

という2つの目標です。メンバーのそんな思いを込めて、来てくださった方々が思い思いに楽しんでもらえるような企画を準備しました。

当日は、フラッシュモブによるオープニングでスタート!

キッチンで行われたカフェでは、飲み物やお菓子でおもてなし。ギャラリーでは「夢まちフラッグ」のブースを開設、みんなの思いをフラッグにしました。Room4では、小中高生を対象に、紙コップを的に見立てた卓球射的大会を開催し、大人気となりました。スポーツ室で行われたカラオケ交流会では、カラオケを通しておとなも子どもも楽しむことができました。

午後には、子どもまちづくりクラブと子ども会議の一年間の活動を発表するとともに、リニューアルした商店街MAPの初お披露目を行いました。また、これまで子どもセンターの建設や活動でお世話になった企業や商店街の方々へ、感謝状を贈呈しました。



子どもセンター事業体系図

子どもセンターの運営

子どもセンター運営会議

子どもセンターの事業

子ども参加事業

子どもまちづくりクラブ
子ども会議
子ども企画
Big Voice

子どもエンパワー事業

アートラボ
料理王
Earth Teens
青春力 -Youth Power-

地域との連携事業

企業との連携事業

子育て支援事業

親子ではび☆はび
親子でほかほか
音楽であそぼう！
親子ピクス
ベビーマッサージ
パパ講座
らいつでお茶っこ

移動児童館事業

河北地区、桃生地区

研修事業

子ども子育て支援者講座

子どもセンターは、子どもの権利を柱に、子ども参加で運営される児童館です。
子どもの権利には「生きる」「育つ」「守られる」「参加する」4つの権利があります。
この4つの権利に基づき、子どもが遊ぶことを通して育つこと、
子どもの声が子どもセンターの事業や運営に活かされること、
地域や社会で子どもが力を発揮できる機会をつくることを大切にしています。

子どもセンターの運営

第4位

- ・ 頼りがいがある
- ・ 楽しくおしゃべりできる
- ・ 相談にのってくれる



子どもセンター運営会議

運営委員は、子どもまちづくりクラブから2名、子ども会議から3名、おとな委員5名で構成されています。子どもまちづくりクラブは、子どもセンターの企画・デザインをしてきた視点から、子ども会議は、子どもセンターを利用する子どもの代表として会議に参加。おとな委員は地域で子どもを見守り、子どもに関係する活動をしている視点から参加し、子どもセンターが子どもの声を反映して運営されるよういっしょに考えます。2017年12月の会議では、来年度から子どもセンターに導入される指定管理者制度について説明がありました。その後、BigVoiceで集めた利用者の声をもとに、運営者が変わってもらいつがらいつであり続けるために、今後の子どもセンターについて話し合いをしました。

3月実施	利用者実績、利用者アンケート報告と検討
6月実施	子どもまちづくりクラブと子ども会議の活動について報告
12月実施	指定管理者制度、BigVoice報告、今後のらいつについて

指定管理者選定の子ども参加



子どもセンターは、2014年1月に開館し、これまで石巻市が運営してきました。2018年4月から、民間の団体が運営する「指定管理者制度」が始まることになりました。子どもセンターは、子どもたちが企画・デザインし建設され、開館後の運営にも参加していることから、その指定管理者選定の過程においても、子どもたちが意見を伝えられるように「子ども委員」が設置されました。指定管理者を選定する際に、利用者である子どもの声が聴かれることは全国的にも珍しい取り組みです。

子どもセンターの愛称「らいつ」

全国から41名48もの作品が集まり、子ども会議及び愛称検討チームで8つの候補作を選びました。そして2014年4月20日に開催された子どもセンター運営会議で厳正な審査のもと、中学生が考えた“らいつ”が選ばれました。“らいつ”の由来は、英語でrights(権利)lights(ひかり)の2つの意味を持ち、子どもの権利の拠点として、未来の希望のひかりとして子どもセンターが存在するという願いが込められています。

子ども参加事業

やってみたいことを提案し実現する事業、子どもセンターの運営や事業に子どもの声を活かす事業、まちづくりへの子ども参加事業など、子ども参加をテーマとした幅広い事業があります。子どもセンターの核となる事業です。



子どもまちづくりクラブ

子どもまちづくりクラブは、子どもセンターの子ども参加事業として位置づけられ、子どもたちが地域の一員として、まちづくりに取り組んでいます。

子どもセンター完成後の2014年以降、メンバーは、立町大通り商店街のマップ作成や震災を風化させないためのモニュメント制作、石巻の復興の様子と子どもたちの願う石巻の未来が描かれた「夢まちフラッグ」の制作に取り組んできました。2017年は、「水産」と「歴史」の2つのテーマで活動に取り組みしました。水産チームは、「石巻といえば、港町！でも、昔に比べたら、魚に触れる機会って、少ないのでは？」という問題意識からもっと魚を身近に感じてもらうようと、実際に船に乗り、漁を取材し、漁師写真展や顔出しパネルの作成、魚介を使ったオリジナルレシピの試食会などを盛り込んだ水産イベントの実施に取り組みしました。歴史マップチームは、「石巻の歴史を知ること、石巻の良さを感じてみたい」という思いから住吉地区と仲町地区に焦点を当て、子どもたち自ら取材の調整を行うとともに、デザインやレイアウトについて話し合いを重ね、石巻の歴史を観光客に知ってもらおうとマップづくりに取り組みました。今後も、子どもの視点から地域の魅力や課題について考え、まちづくりに取り組んでいきます。

1月	らいつの日003準備/実施、商店街MAPお披露目、サントリー寄付贈呈式	37名
2月	夢まちフラッグ制作	11名
3月	夢まちフラッグお披露目、市役所との意見交換会準備	42名
4月	市役所との意見交換会準備	16名
5月	市役所との意見交換会実施/今後の活動について	13名
6月	今後の活動テーマについて/夏合宿準備	5名
7月	夏合宿準備/実施	49名
8月	他地域の子ども活動団体と交流（仙台）/今後のプロジェクトテーマ検討	27名
9月	今後のプロジェクトテーマ合意(水産イベント、歴史マップ)	15名
10月	水産イベント企画検討、石巻大漁祭り見学、歴史マップ取材①	34名
11月	オリジナル魚介レシピ試作、歴史マップ取材②	19名
12月	水産イベント企画検討、歴史マップデザイン検討	14名

意見交換会

昨年に引き続き、こどもの日である5月5日に「子どもの声を発信しよう」「子どもの声を聴こう」と意見交換会を開催しました。

2年目の開催となる今年は、らいつ以外の石巻市内で活動する子どもたちも参加し、74名がらいつに集まりました。はじめに、石巻市内で活動する7団体（※）から、地域で自分たちがどんな活動をしているのか活動紹介をしました。その後、「未成年の主張（提言）」と題して、日頃まちに対して思っているを叫びました。

「たくさんの人が防災や震災について考える機会

がほしい」「もっと安心・安全に暮らせるまちにするために、街灯を増やしたり、ごみ箱を設置したりしてほしい」「まちづくりクラブの活動をもっと活性化させるために、サミットやイベントをしたい」「もっと石巻に遊べる場所がほしい」「子どもの意見をとりいれた公園をつくりたい」「鹿妻にプレーパークがほしい」

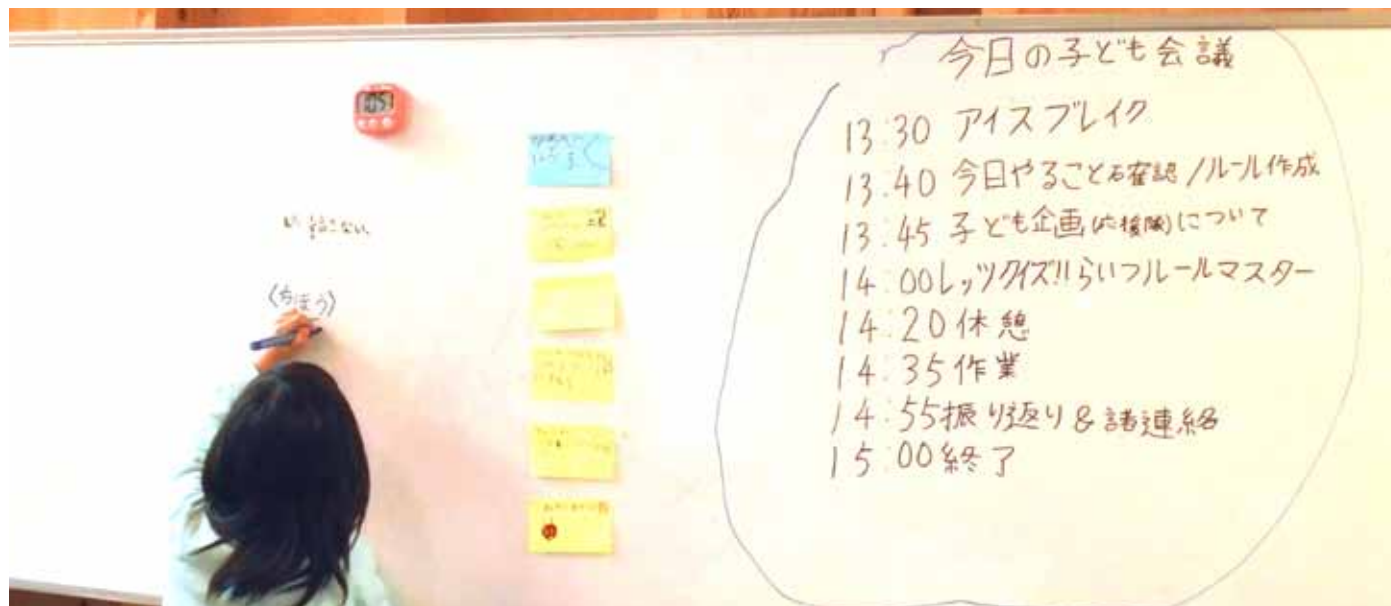
未成年の主張の後は担当課からのコメントがありましたが、それだけではお互いの想いも伝わりきらないため、関心のあるテーマごとに分かれ、参加者（子ども×おとな×市役所）みんなで意見交換を行い

ました。「これは難しいけど、これならできるのでは？」と、みんなで知恵を絞ってそれぞれのテーマの実現に向け、アイデアを出し合いました。

実施日：5月5日（祝）

参加者：74名(子ども:30名/おとな:30名/行政:14名)

※石巻市内で活動する7団体：子どもまちづくりクラブ（らいつ）、子ども会議（らいつ）、めだっこクラブ（NPO法人ひたかみ水の里）、かづま戦隊アボベン（NPO法人こども∞感ばにー）、LAZO倶楽部（子どものための石巻市民会議）、いしのまきカフェ「」（NPO法人かざかっこPROJECT）、いしのまき学校（一般社団法人ishinomaki20）



子ども会議

子ども会議では、子どもセンターの利用方法に子どもたちの声を反映するため小学生から高校生までのメンバーが月に1、2回集まり、様々な意見を出し合っています。メンバーは昨年までは3年生以上でしたが、小学2年生の強い要望により2年生以上となりました。また、利用者から提案された子ども企画を承認するのも子ども会議の役割です。今年度は、新しくらいつに導入したカラオケ機材や交流ノートの使い方について話し合ったり、2018年4月かららいつの体制が変わることを受けて、今まで子ども会議で決定してきた子どもセンターのル

ールや子ども企画の流れについての見直しを行ったりしました。活動では、小学校低学年のメンバーが新たに参加し、初めての話し合いの場で戸惑っている中、中高生メンバーが新しいメンバーをフォローする姿が見られました。また、らいつのルールを見直す中で、「らいつだけで守るルール」「らいつ以外でも守るルール」をみんなで分けながら、ルールとマナーについて考える姿が印象的でした。今後も話し合いを重ね、自分たちで課題を発見し、解決することができるよう活動を続けていきたいと思っています。

1月	らいつの日003準備/実施 サントリー寄付贈呈式	26名 9名
2月	寄付でいただいたものを報告/今後子ども会議で行うことのアイデア出し	5名
3月	カラオケについて・曲名検討/卒業・進級・新メンバー歓迎会	13名
4月	市役所との意見交換会の準備	16名
5月	市役所との意見交換会実施/夏祭りについて/10万人来館記念について	10名
6月	夏祭りの企画内容について	9名

7月	交流ノートについて/夏祭りの企画検討・準備	11名
8月	他地域の子どもの活動団体と交流(仙台)/夏祭り実施	15名
9月	子どもセンター内の遊具のリスト作成/冷蔵庫の使い方について	7名
10月	子どもセンターのルールについて/Big Voiceについて	7名
11月	Big Voiceの掲示板作成	7名
12月	子ども企画の流れについて/らいつの日004の感謝会について	6名

Big Voice

事業に子どもたちの声を活かすために、利用者ならだれでも参加できるBigVoiceを開催しました。BigVoiceは、子ども会議メンバーが企画実施を行い、利用者に子どもセンターについて楽しみながら意見を出してもらえよう工夫をしています。今年は、来年度から子どもセンターの運営団体が変わることを受け

て「子どもセンターの理想の職員」をアンケートで「らいつでやりたいこと」を掲示板方式で、利用者の意見を募集しました。また、乳幼児親子向けのBigVoiceも職員企画で開催しました。BigVoiceで出された意見は、各事業や利用方法に反映していきます。

子ども対象 11月11日～26日実施 アンケートの参加者65名 乳幼児親子対象 参加者67名



らいつ夏祭り

今年の夏祭りは、来館者10万人達成記念のお祝いと感謝の気持ちを込めて開催しました。例年、夏祭りは子どもたちがやりたいことを自分たちで企画し、店長となって準備していきます。今年は、ジュース、かき氷、ポテト、射的、ボーリング、くじ引きの6つと、10万人達成記念手形アートのブースが出来ました。「10万人達成に感謝の気持ちを込めて、形に残るものをみんなで作りたい」という、子ども会議メンバーの思いで作成することになった今回の手形アー

トは、ギャラリー、キッズコーナー、Room3など、らいつの場所が浮かび上がった素敵な作品になりました。また、指定管理者選定子ども委員によるらいつのいいところなどをみんなに書いてもらうアンケート掲示板も設置されました。そして最後はやっぱり、らいつのアイドルMilky Girlのライブ！夏らしい曲をさわやかに歌い上げ、会場を盛り上げました。

実施日：8月19日（土） 参加者：137名

子ども実行委員企画イベント

夏祭りや石巻ハロウィン祭りは、だれでも企画者として参加できるように実行委員会形式で開催しています。子どものやってみたいを実現する場、また地域や学校や学年を超えてつながる場となっています。



ハロウィン祭り

子どもまちづくりクラブが中心市街地活性化基本計画に向けて提案した「商店街でハロウィンパーティを開催する」を実現したハロウィン祭り。今年は、メインイベントのまちなかでのお菓子集めイベントの他、子ども実行委員による宝探しイベント、ハロウィンメイク、仮装づくり、ハロウィンライブを行いました。また、毎年恒例となった仮装コンテストを今年はイーリス立町ハロウィン祭りのステージをお借りして開催！30名のおばけたちがステージの上でアピールをし、上位3名と特別賞2名の計5名が表彰されました。

実施日：10月28日（土） 参加者：812名
協賛：アイトピア商店街振興組合、立町大通り商店街振興組合、橋通り商店街振興組合、中央一大通り商店会
協力：一般社団法人ISHINOMAKI2.0、株式会社まちづくりまんぼう、橋通りCOMMON、石巻商工会議所、いしのまき元氣いちば



子ども企画

子ども企画では、子どもたちがいつでも自由に子どもセンターでやりたいことを提案できます。普段やりたいことがあっても、なかなか実現できない子ども、子どもセンターでは、職員のサポートを受けながら、実現させることができます。自分で企画書を書き、参加者を集めたり、広報したりしながら、実現させることのむずかしさ、そして企画が成功したときの達成感を感じることができます。子どもたちから提案された企画は、子ども会議メンバーによって、実現できるかどうかの議論を行います。楽しそう、工夫したところがあるなどの視点で点数をつけ、合計点の8割以上を取ると、承認になります。

小学生から高校生までの様々な世代の企画者による様々な企画が行われ、子どものやりたいと思ったことが実現できる場となっています。今年は、同じ企画を定期的に開催する子どもや他の子が行った企画を自分でアレンジして企画する子どももいました。

日常的な関わりの中で、職員が子どもたちにもっと寄り添い、「やってみたい」を実現できる場であり続けることを目指します。

提案日	提案者	内容	結果	実施日	参加人数
2月25日	中学生	バスケット大会	可決	3月5日	10人
3月15日	中学生	フリースロー大会	可決	3月25日	14人
4月7日	小学生	防災訓練（火けむり体験）	可決	4月23日	14人
10月28日	小学生	トレジャーハンター	可決	11月26日	12人
11月18日	小学生	秋の太鼓の達人大会	可決	12月2日	8人
12月9日	高校生	クリスマスパーティー	可決	12月24日	27人

子どもエンパワー事業

さまざまな体験を通して、自分のもつ力に気付くことのできる事業です。

子どもエンパワー事業で自分の力に気付いたら、今度は、その力を地域や社会で発揮しよう！

アートラボ

芸術を通じて、表現方法の多様性やものづくりの楽しさを感じることができる事業です。地域の方、企業の方などいろいろな方に講師としてご協力いただきました。自分の気持ちを言葉ではなかなかうまく表現できない子どもたちにも、様々な方法で思いを伝えることができることを知ってほしい。プロの芸術に触れることで普段体験することができないことを体験してほしい。自分の可能性を広げてほしいと願って取り組みました。今年は地域の方の協力を得て、石巻に関連する内容を多く取り入れ開催しました。あまり体験することのできない陶芸体験では、使用する土も石巻のものを使い、各々が工夫を凝らして使いやすい様にコップを作りました。毎年恒例となった「光の箱」づくりでは、たくさんの方がらいつに訪れ、一日中にぎわいました。普段は子どもセンターの中で完結してしまうアートラボですが、近くにある中瀬公園へ出かけ、作ったペットボトルロケットを飛ばしました。

1月	今年の一筆、書初め大会	講師：千葉久美子	7名
2月	手作り陶芸体験	講師：にじいろクレヨン 古川大輔	15名
6月	オモドクッキング	講師：女子美術大学 オモドクチーム	15名
7月	レジンアクセサリーをつくろう	講師：鈴木瑠佳	11名
8月	ペットボトルロケットを作ろう	講師：女川向学館 井優樹	7名
9月	きらめ気サンキャッチャー	講師：女子美術大学 ヤマザキミノリ	14名
10月	文字であそぼう	講師：東京学芸大学 松尾美沙、茂木絢水	7名
12月	つくってみよう「光の箱」	株式会社乃村工芸社との共催事業	107名



めざせ!料理王

食を通じて、子どもたちが地域や社会と交流を深める事業です。毎月第2土曜日開催。地域の方を講師に招き、家でも簡単に作れる料理を地域の方と交流しながら学びました。今年も料理王はお餅つきからはじまり、無添加シチューや、カベレッティ、パエリアなど、食材にもこだわり様々な料理に挑戦し

ました。パン作りでは、商店街にあるパン工房で調理し、「普段は入れない所に入って調理できた」と好評でした。

今後も地域の方々とのつながりを大切に、子どもたちの声をたくさん取り入れた料理王にしていきたいと思います。

1月	お餅つき&お雑煮作り 講師：五ノ井初枝、立花よね子（地域の方）	14名	5月	花束をモチーフにしたクレープ作り♡ 講師：久本有里子（cafe natural infinity カナイ）	16名	10月	ハロウィンのシフォンケーキ作り 講師：説田幸子（手づくりお菓子教室）	19名
2月	ホワイトソースから作る無添加シチュー♪ 講師：亀山知枝（Cafeはまぐり堂）	14名	6月	カメロンパン&あみパン作り 講師：高橋舞（萬衆堂）	18名	11月	きのこのクリームペンネ（パスタ）作り 講師：新井高広（Resilience Bar）	15名
3月	カベレッティ作り〜帽子の形のパスタ〜 講師：松本圭介（オスピタリタ・ダ・オリノ）	15名	7月	COOPママとおにぎらず作り♪ 講師：曾田洋子（みやぎ生活協同組合 共同購入運営部）	21名	12月	クリスマスデザートパーティー 講師：佐々木亮介（食堂バレス）	16名
4月	バナナのタルト作り 講師：小野笑加（石巻グランドホテル）	17名	9月	パエリア（スペイン料理）作り 講師：大野由紀子（LONG BEACH HOUSE）	11名			



Earth Teens

社会・人権・平和をテーマに、子どもたちの「知りたい」「やりたい」そして「考えたい」気持ちを育てる事業です。毎月第4土曜日開催。今年のテーマは海と川！石巻の主産業である水産業にフォーカスし、地域のみなさんの協力を得ながら、楽しくて美味しくて学べるプログラムを行うことができま

した。毎年好評のカヌー体験が荒天のため中止となり残念でしたが、他は全て天気に恵まれ、らいつから飛び出し、らいつだからこその体験がたくさんできました。

1月 フェアトレードチョコでチョコレートケーキづくり
3月 かき工場&のり工場へ見学に行こう！
4月 みんなで春をお祝いしよう！たまごさがし
5月 屋上で野菜を育てよう～次世代の畑～
7月 カヌー体験、しませんか
8月 かわ探検
9月 ノッテ ミテ サバイテ タベル 1日漁師体験
10月 ハロウィンパーティ

講師：いしのまきカフェ「」（かきかっこ）
講師：石巻湾支所万石浦鮮かき工場、相澤海苔店
講師：子どもセンター職員
講師：子どもセンター職員
講師：NPO法人ひたかみ水の里
協力：国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所、岩手河川国道事務所
共催：宮城県漁業協同組合石巻地区支所、一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン、ヤフー株式会社 後援：日本財団
講師：子どもセンター職員

16人
9人
11人
9人
荒天中止
8人
11人
21人



せいしゅんりき

青春力 -Youth Power-

中高生世代が様々なテーマを通じて地域や社会に関心を持ち、繋がることのできる事業です。地域の呉服店の方を講師に浴衣の着付けを学んだり、写真家によるカメラ教室を行うなど、地域の多様なおとなとつながる機会をつくりました。また、「らいつごはん」では、みんなでおにぎりや鍋を作って食べながら、時には

青春力の企画について話し合いました。卒業・進級パーティーに向け、子どもたちが意見を出し合い、内容を考え協力し、開催後は学年を越えて仲間の輪が広がりました。中高生利用者とともに、これからも魅力ある青春力にしていきたいと思います。

1月	初詣に行こう！ らいつごはん〜カレー&卵かけごはん作り	2人（大雪のため） 9人	5月	保育士志望あつまれ！ 講師：地域の保育士・子ども関係者6人	13人
2月	らいつごはん〜おにぎり&味噌汁作り	11人	7月	浴衣の着付けをマスターしよう♪ 講師：米倉 網枝（かめ七呉服店）	6人
3月	らいつごはん〜おにぎり&卒業・進級鍋パーティーの内容決め 卒業・進級パーティー！	13人 22人	9月	ビブリオバトル	4人
4月	お団子作り&お花見	9人	10月	宮城県知事選挙・第48回衆議院選挙の模擬選挙	
			12月	らいつごはん〜闇鍋パーティー 男女集結！恋愛話 カメラ教室 講師：平井 慶祐（写真家）	15人 8人 4人

子育て支援事業

乳幼児親子を対象とし、発達に合わせて参加出来る様々なプログラムを開催。プログラムを通してママ友を作ったり、子育てについて学習したりする機会を設けました。子育てを一人で悩まずに、いろいろな人とつながって、楽しく子育て出来る環境づくりを目指して、たくさんの親子に参加していただきました。



親子でほかほか

乳幼児親子対象。絵本、手遊び、わらべうた、身近な素材を使った製作、簡単お菓子作りなどを通し、親子のスキンシップを図ると同時に、参加者同士の交流・触れ合いにもなっています。

第2・4木曜日開催 20回実施 参加者：211組



パパ講座

乳幼児とお父さん対象。子育てはママだけではなく、パパも楽しく参加できる！母の日のフラワーアレンジ、親子ヨガ、リトミック、親子料理教室等のプログラムを開催。参加者同士の交流も生まれました。

日曜日開催 5回実施 参加者：37組



らいつでお茶っこ

乳幼児親子、乳幼児を子育て中の親対象。「らいつでもお茶っこやって欲しいなあ」というお母さんの声から、2017年7月スタート。ゆっくりお茶っこしたり、遊んだりしながら乳幼児親子同士で交流しています。

毎月1回開催 5回実施 参加者：55組



親子ではぴ☆はぴ

0歳児とその保護者を対象に、地域で活躍する様々な方を講師に招き、週替わりで子育てに関する様々なテーマで講座を実施。毎回サークルも生まれ、子育ての輪が広がりました。

冬期	1～3月	8回実施	参加者：10組
春期	5～6月	8回実施	参加者：11組
秋期	10～11月	8回実施	参加者：11組



音楽であそぼう！

しっかり歩く1～2歳児対象。音楽に合わせて、楽器、ボール等を使って親子で楽しく身体を動かしました。リピーターの多い人気プログラムです。

第2・4火曜日実施 20回連続講座 参加者：205組



親子ビクス

運動やストレッチで身体も心もリフレッシュ。よちよち歩きもしっかり歩きも、親子でいっしょに体を動かしました。

第3金曜日開催 3回実施 参加者：26組



ベビーマッサージ

はいはいまでの乳幼児親子対象。NPO法人ベビースマイル石巻の講師を中心に、親子のスキンシップの方法や大切さを学んだり、子どもの様子を聞いたり話したりする場にもなっています。

第3金曜日開催 10回実施 参加者：73組

移動児童館事業

らいつは遠くてなかなか遊びに行けない！という声にこたえて、子どもセンターから離れた地域で遊び場をつくりました。

一般社団法人プレーワークーズ、特定非営利活動法人こどもへの感覚に、特定非営利活動法人にじいろクレヨン、社会福祉法人石巻市社会福祉協議会の協力で開催。地域で子どもの遊ぶ姿がなかなか見られなくなった今だからこそ、野外で自由に遊ぶことを大切にしたいと考えています。移動児童館事業をきっかけに、自主的に地域の親子が集まって、外で遊ぶ機会が増えていると聞きます。地域のそんな変化を嬉しいと感じています。

河北地区 追波川河川運動公園

開催日	参加人数
4月28日	48人
5月26日	11人
6月30日	31人
7月28日	38人
8月25日	8人
9月22日	27人
10月27日	27人
11月24日	雨天中止

地域との連携事業

Reborn-Art Festival × Tカード

みんなで石巻を盛り上げようと、子どもたちでアート作品の制作を行いました。

6月24日、6月25日、8月6日、8月7日開催 参加者：54人

ミニ簡易アラート装置をつくろう

国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所が講師となり、工作で水位計をつくり河川の被害について学びました。

8月21日開催 参加者：14人

石巻かき祭り

地元のかきをもっと身近に感じてもらいたいと、しあわせ料理研究家こうちゃんによるかきを使った親子料理教室を開催しました。

11月23日開催 参加者：8組の親子（+未就学7名）

けん玉

川開き祭りにけん玉検定や自分だけのマイけん玉づくりのワークショップを開催しました。プロプレイヤーによるパフォーマンスもありました。

8月1日開催 参加者：34人（けん玉づくり：20名 検定：14名）

子どものまち・いしのまき

今年は、橋通りと中央一復興公営住宅と子どもセンターが会場となり、子ども主体のにぎやかなまちとなりました。

10月7日、10月8日開催 子どもセンター会場参加者540人





桃生地区
 桃生総合支所前芝生広場
 開催日 参加人数
 5月23日 39人
 7月4日 42人

研修事業

子ども一人ひとりが、今を生きる主体として大切にされ、自信と希望を持って育つことのできる地域や社会をつくるために、多様な視点から学びました。

日付	研修名	講師名	人数
2月11日	子どもの居場所を生み出す“まなざし”とスキル	西野 博之（川崎市子ども夢パーク所長）	20人
6月15日	今子どもが求めている居場所とは（対談）	阿南 健太郎（一般社団法人児童健全育成推進財団） 原 京子（石巻市子どもセンターらいつアドバイザー）	30人
7月20日	子どもの遊びと危険	星野 諭（特定非営利活動法人コドモ・ワカモノまちING）	15人
9月7日	ワークショップ研修	荒木 寿友（立命館大学）	17人
12月7日	子どもの発達と絵本・おもちゃのはなし	横田 敬子（横田や）	31人

企業連携事業

企業の持っている専門性を子どもたちに伝えたい。そして、企業の方にも子どもの権利を知ってもらい、子どもにも力があることを知ってもらいたい。そんな思いが一致した企業と連携し、企業の持っているプログラムを子どもセンターで実施しています。

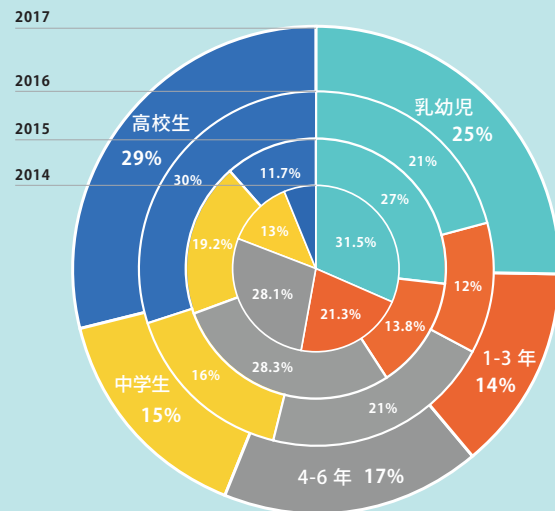
- 1月28日 サッカー体験教室 コバルトレー女川 25名
- 2月18日 サッカー体験教室 コバルトレー女川 20名
- 5月27日 フラワープロジェクト サントリーフラワーズ株式会社 24名
- 6月11日 みんなでコバルトレー女川を応援しよう！ コバルトレー女川 12名
- 7月13日 野球教室 サントリーホールディングス株式会社 他グループ各社
47名参加（野球チーム27名、一般20名）
- 8月23日 プラモデルをつくらう！！ 株式会社バンダイナムコホールディングス 21名
- その他、アートラボや料理王でも連携しています。



データで見る子どもセンター

2017年1月から12月までの利用者延べ人数は27,228名でした。2016年に比べ、約1700人少なくなっています。一般来館者数を見ると2016年に大幅に増えた高校生が約500人減少した他、中学生が約400人、小学校高学年が約800人減少しています。高校生については、2016年に大幅に増加したため、一旦利用者数が落ち着いたものと思われますが、状況を見ていく必要があります。また小学校高学年の一般来館の減少は2016年から続く課題であるため小学校高学年対象の魅力あるプログラムの実施の他、広報の工夫など取り組みが必要です。一方で、乳幼児と小学校低学年の一般来館数が増えました。乳幼児については、定期開催

事業参加者ではなく、一般来館者が増えたということで、居心地の良いらいつの良さが乳幼児親子に改めて認識されたのではないかと思います。小学校低学年については、小学2年生が学校の社会科見学の一環で訪れることが増え、幅広い学校の子どもたちが来館するようになっています。また2017年後半から小学校低学年の子どもたちによる子ども企画の提案が増えています。引き続き、子どもたちのやってみたいが実現できるようにサポートしていきたいと思っています。これからも子どもたちの声を聴き、その声を生かし、0歳から18歳までの子どもたちが幅広く利用できるよう環境づくりに取り組みます。

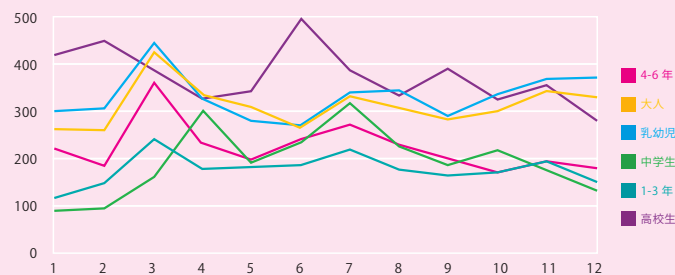


1-12月 一般来館者年齢別割合

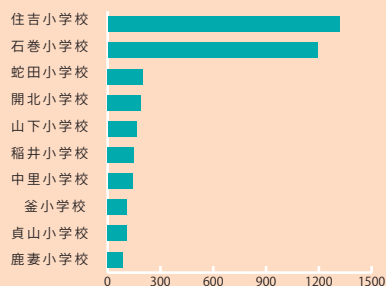
1-12月 延べ来館者数

	乳幼児	小学低	小学高	中学生	高校生	おとな	合計
一般来館	3983	2128	2681	2335	4510	3765	19402
定期開催事業	901	235	245	99	238	900	2618
行事	457	462	419	79	84	790	2291
子ども企画	5	16	33	11	12	8	85
団体利用	290	382	286	112	148	1164	2382
見学	2	63	1	3	9	372	450
総合計	5638	3286	3665	2639	5001	6999	27228

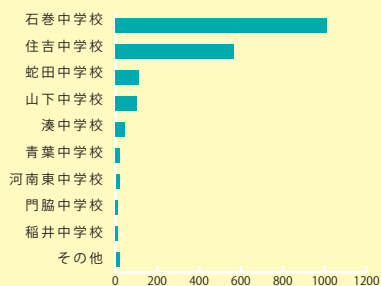
1-12月 一般来館者年齢別推移



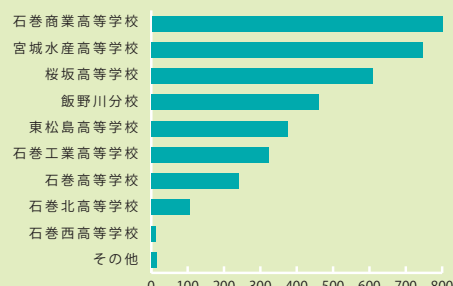
小学校別利用者数(上位10校)



中学校別利用者数(上位10校)



高等学校別利用者数(上位10校)



さいごに

子どもセンターは、子どもの権利を柱に、子ども参加で運営される児童館です。子ども参加とは、子どもたちの声をよく聞き、その声を運営や事業に活かしていくことです。子どもセンターではすべての事業に、子どもたちが意見を言う機会があり、その意見は事業に活かされています。ゴミの問題や飲食の場所など利用についても、子どもたちの利用者代表である子ども会議がどうするかを検討し、ルールを作ってきました。

また、子どもたちがやりたいことを提案し、実現する仕組み「子ども企画」があります。子ども自身により、水遊び大会、カードゲーム大会、3on3大会などさまざまなイベントが提案実施され、活気あふれる子どもセンターの要素の1つとなっています。

子ども参加を実現することは、じっくり子どもと向き合う手間と根気、そしておとなの理解が必要です。そして、子ども自身にも、自分の思いを伝える力、やりたいことを実現する力が必要です。それらの力は遊びや他者との関わり、話し合い、さまざまな体験などをおして子ども自身が獲得していく力です。

子どもセンターがこれからも子どもによる子どものための施設でありつづけるために、子どもの遊びの重要性を理解し、子どもが遊びを通して育つ場であるとともに、子どもの主体性を大切にし、子どもの社会参画を実現する児童館として、また、世界に子どもたちの声を発信する拠点として、地域のみなさんのご理解を得ながら邁進したいと思います。



石巻市子どもセンター

〒986-0824 石巻市立町1丁目6番1号

TEL 0225-23-1080 FAX 0225-23-1081

写真提供：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

